

【企画もの】

ちょっと高級な文房具使ってみた ～PARKERボールペン体験記～

1. はじめに

皆さんは普段文房具にどのくらいお金をかけているだろうか。最近は百均の文房具など比較的安価な文房具の性能やデザインも進化しており、特に文房具をよく使う学生にとっては「安ければ安いほど良い」ものなのかもしれない。今回私は普段なら買わない「高級文房具」を購入し、いつも使用しているものとの比較調査を行った。

2. PARKERのボールペンとの 出会い

今回比較調査のために購入したのはイギリスの高級文房具ブランド「PARKER」のボールペンである。高級文房具の購入にあたりインターネットで「ちょっと高級な文房具」と検索したところ、このPARKERの文房具がさまざまなサイトで紹介されておりそのスタイリッシュなデザインや人気度の高さに惹かれた。また今回私が購入したのはPARKERのボールペンの中でも「IM」という種類であるが、このペンは値段も他の種類と比べるとお手頃で勉強など長時間の筆記に向いているといった理由から選択した。実際に届いてみるとEST. 1888（創業1888年）という金文字が入った大変高級感のある紺色の箱に入っており、値段の高さを感じることができた。



高級感溢れる箱のデザイン



箱の側面に描かれた紋章

ペン・鉛筆・インク製造業者のひとつとして、Parker Pen Companyが英国王室御用達であることが、紋章とともに示されている。左：女王御用達 右：プリンス・オブ・ウェールズ御用達
次頁図：ペン本体（全体とクリップ部）



3. 比較調査

今回は、同じ油性ボールペンである「フェアライン カラークリアボールペン」と PARKER のボールペンを比較する。



	SAILOR フェアライン	PARKER IM ブラック
価格	¥88	¥2,355
ペンの長さ	142mm	140mm
ペンの太さ (ボール径)	0.7mm	0.7mm
ペンの重さ	9.0g	23g
デザイン	ボディ部分は透明で、インク残量が分かりやすい。可動式のクリップ付き。ロゴはシルバーで持ち手にラバーグリップが付いている。	ボディ部分には艶があり高級感を感じることが出来る。クリップ部分にある矢のモチーフや持ち手のさりげないロゴなどデザインの工夫がみられる。
書き味	線がかすれたりすることもなく、さらさらとした書き味である。持ち手にグリップがあるため手が疲れにくい。	とてもなめらかな書き味である。ペンに重みがあるためしっかりと文字を書くことができる。線がにじむことはなかったが、少しかすれてしまう時があった。

- ・フェアラインに比べて PARKER のペンの方が少し太く、重い。
- ・インク残量が分かりやすい、グリップ付きという点からデザインに機能性も含まれているのがフェアライン、よりデザイン性が高いのが PARKER であるといえる。
- ・書き味はどちらもなめらかであるが PARKER のボールペンで書いた時の文字のかすれが少し気になった。

4. 感想

今回初めて「高級文房具」を使用してみて、たしかにデザインや素材感には値段が表れているように感じた。しかし、ボールペンの書き味だけ見るとフェアラインも十分書きやすく、逆に書き慣れていないからか PARKER のボールペンを使っていて少し書きづらいと感じてしまう部分もあった。そのような使用感、そして相当の価格であるにもかかわらず、PARKER のボールペンは世界中で一定数は売れ続けているようだ。(PARKER 英語版ホームページ <https://www.parkerpen.com>) なぜなのだろうか。ビジネスシーンでの書類へのサインとしての用途や、アルファベットは漢字・ひらがなに比べて「止め」や「はね」などが少ないといった文字の特徴の違いなどいくつか理由は推測できるが、その検証はまたいつか機会があるときにしてみたい。

今回はボールペンについて比較検討したが、ノートやシャープペンシルなど他のカテゴリの文房具ではまた違った結果を得ることができると考えるため、機会があれば他の高級文房具も試してみたい。

〈参考資料〉

- ・ PARKER 日本版ホームページ IM 商品情報

<https://www.parkerpen.com/ja-JP/parker-im>

(最終閲覧：2020/07/01)

- ・ SAILOR ホームページ フェアライン カラークリアボールペン 商品情報

<https://www.sailor.co.jp/lineup/ball-pen/16-5081>

(最終閲覧：2020/07/16)

【本稿書誌情報】

(本稿は無記名の原稿です)

『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ 2020』

〔2020 年度「文化社会学演習」WEB 版報告書〕 <https://bungu-narajo.org/>

2020 年 8 月 1 日

編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp
